

夢を実現しリフレッシュ

長谷川武（70歳）さんは定年を意識しはじめたころ、「夢を実現することがリフレッシュにつながる」と考え、人生をより豊かにするチャンネルにシルバーモデルを加えました。ドラマの通行人ならできると思ったからです。「華々しいスポットライトはあたらぬが、エキストラは動く小道具として重要な役割がある」と長谷川さん。大物俳優やタレントさんと一緒に、そのシーンを共有する瞬間は緊張と快感が走ります。時代劇の町人に扮し、非日常の世界にひたるのも楽しみ。これまでにNHKの「大地の子」や「金曜時代劇」、朝ドラなどに出演。福祉番組では、半身不自由な人のモデルになり、足先がついピクツと動いてしまい、何度もNGを出したこともあるとか。CMにもおじいちゃん役で出演しました。



時代劇のエキストラも経験

人生を豊かにするチャンネルを

学びたいときが適齢期



長谷川 武さん
(多摩区長沢在住)

こうしたおちやめな側面とはまったく異なるチャンネルが、62歳での大学生。長谷川さんは銀行マンでしたが、実体験を学問的な視点に照らすとどう理論づけられるのかと、専修大学経済学部へ社会人入学しました。いつも最前列で、教授の一言一句も聴きもらすまいとノートを取り、復習・予習をくり返す毎日でした。卒論は、まさに今の政治課題を先取りした「少子高齢化社会の年金を考える」がテーマ。若い学生たちとの議論や交流が「青春」をよびもどし、学習意欲を一層かきたて、卒業後は大学院に。2年間かけ、公的年金制度に関する論文をまとめ、修士課程を終えたのは2003年3月のことです。

「学びたいと思ったときが適齢期」と、現在、日本語教師養成講座を受講中。資格を得て、異文化コミュニケーションの活動にかかわりたいと願っています。また、30年近く住む地元の自治会理事として、防災・防犯、環境問題などに取り組み、コミュニケーション全般にわたり、こまめに対応したいとも。

起承転結の「転」にあたる古稀を迎えたのは今年の10月。「シューベルトの交響曲『未完成』」の第3楽章に入った。中学時代にピアノのレッスンを受けたが、指はきつと覚えててくれている。70歳からピアノをおさらいしたい」という楽しい夢もあります。長谷川さんが大好きなサムエル・ウルマンの詩、「青春とは心の持ち方をいうのだ。理想を失うときはじめて老いる。希望をもつかぎり人は青春であり続ける」は、いつも自分を見つめ、誠実に、しかもエネルギーギッシュに生きていく長谷川さんそのものです。

